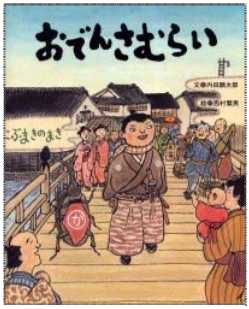
おでんさむらい

こぶまきのまき

内田麟太郎作　西村繁男絵　くもん出版

ゆきが ふりそうなほど さむい よるのこと。ひらた・おでんが、おとものかぶへいと あるいていると、ひめいが きこえてまいりました。

ふたりが へいの かげから ようすを うかがうと、よいどれざむらいが かたなの つかに てを かけています。そして、そのまえで こどもの かさおばけが ふるえていました。

こんな さむい ばんに おばけがでてきた そのわけは…。

江戸（えど）の町（まち）を舞台（ぶたい）にした、時代劇（じだいげき）のような絵本（えほん）。